

遊びも趣味も 極めれば人生が輝く

仲間やフォロワーに励まされ
ファミコンアートでギネス認定
石田 頼仁さん(石田町)



ギネス認定証を手にする
石田 頼仁さん

世界で一番大きなモザイク(画像)でギネス世界記録を達成しました

令和3年10月31日。

地域総合センターの体育館で、早朝から石田 頼仁さん(石田町)の孤独で静かな戦いが始まりました。挑むのは「世界で一番大きなビデオゲームカートリッジモザイク(画像)」。ファミコンコンピュータのソフト4256本を使い、7時間をかけて、約5m×6m(32・436㎡)のカラフルなモザイク画を完成させました。

作業の一部始終を厳しい目で見つめる審査員。組みあがった画像の詳細な測量をしてもらって、ようやく作品が完成した時は、精も根も尽き果てた様子でした。

ギネス認定の一報は今春2月。そして3月下旬に、待ちに待ったギネス認定書が石田さんの手元に届きました。

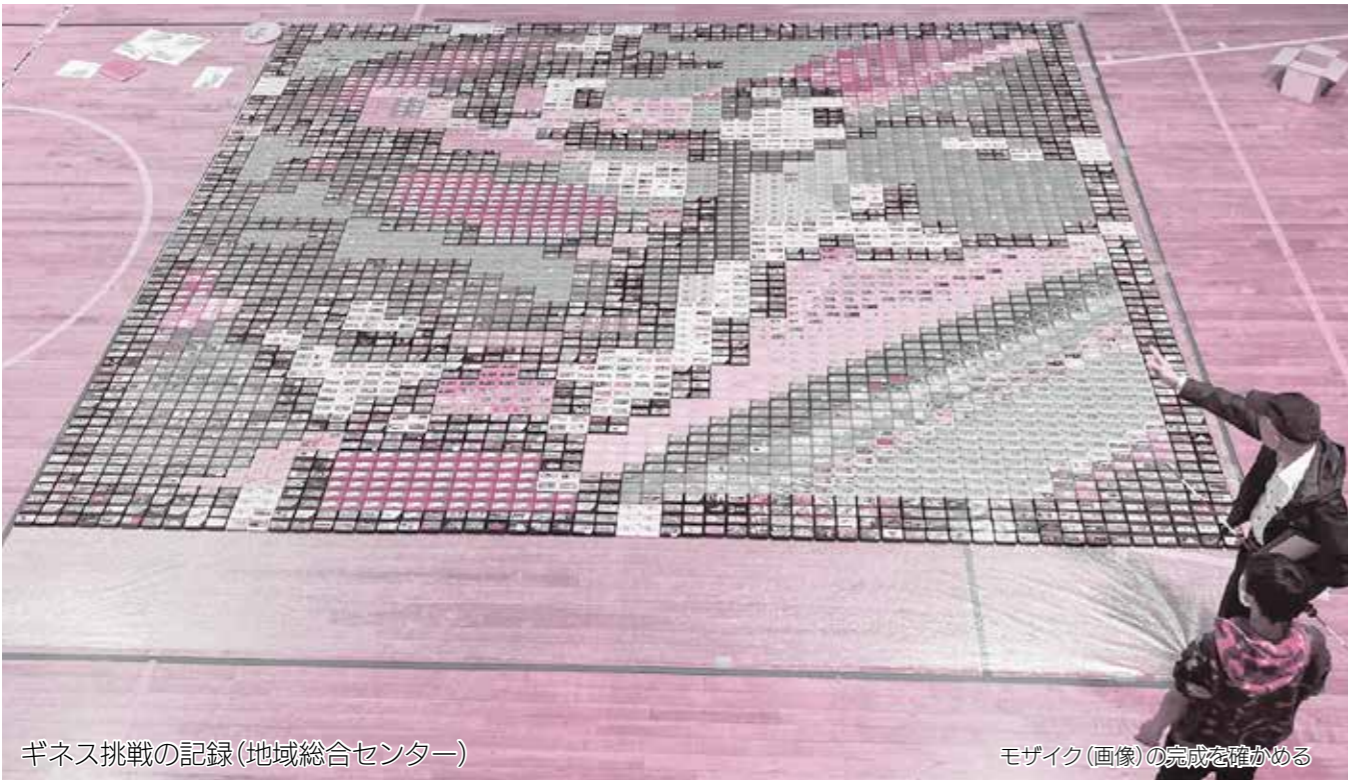


カートリッジを広げて

白紙の作業台を前に

完成まであと少し

設計通りに色を並べていく



モザイク(画像)の完成を確かめる

ギネス挑戦の記録(地域総合センター)

ゲームをするだけじゃない 自分だけの趣味を見つけた

子どもの頃からゲームが大好きだった石田さんは、ファミコンコンピュータのカートリッジを使ったモザイク画像を「ファミコンアート」と名付けて、平成27年から作り始めました。

もともとは世界のファミコンコンピュータソフトをコレクションしていて、世界1200本(といわれている)のコンプリートを目指していたそう。600~700本のゲームソフトを持っていました。ところが、SNS上で仲良くなったゲーム好きな仲間とのやりとりで、すでにコンプリートを果たしている人が複数いたことや、プレミアがついて1本数十万円もするソフトがあることから断念して「皆と違うことをしよう」と思

い立ったそうです。

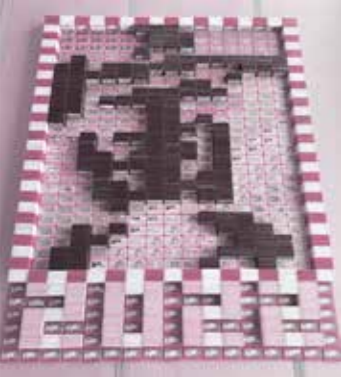
初期のファミコンコンピュータソフトは一つ一つが大きめでイラストや彩色が施されていた。ゲームの中で「ドット絵」という表現形態にも慣れてきた石田さんは、ふとカートリッジを並べて「スーパーマリオ」のゲームキャラクターを創ってみました。

これが、SNS上の仲間たちにも好評で、仕事の合間や休日の暇を見つけては新しい作品を創って写真をアップすることが一番の趣味になりました。

趣味でギネスを達成した 好きと自信が未来へつながる

石田さんの実家は「浄満寺」というお寺。広い本堂を借りられたので、趣味のファミコンアートは徐々に大きな作品になって

いきました。石田さんの趣味を知る知人に「ギネス挑戦を勧められ、時間はかかるけれど経済的な負担の少ない方法を見つけ、1年がかりで準備をして昨年10月の挑戦に至りました。普段は障害者福祉施設で仕事をしていた、奥さまや2歳になる子どももいます。4260本という膨大なファミコンソフトは実家のお寺に預けて、モザイク画の制作は時々しかできないほど忙しい毎を送っています。それでも、石田さんは「趣味だけれど、作業しながらファミコンアートが完成していく様を見るのが面白くて、時々しかできないけども、いい作品を作りたいという気持ちと次の作品の構想が膨らんでいます。いつか、もう少し大きくなった子どもと一緒に、ファミコンアート作りができたらいいなと思っています」と話していました。



石田さんが作ったいろいろなモザイク